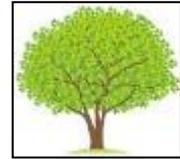


# 火起こし体験

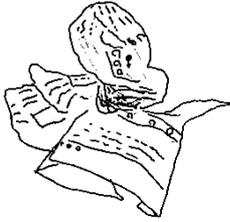


活動場所	実習棟、交流ひろば	自然の家に あるもの	薪(有料)、皮軍手、耐火レンガまたはたき火台、火ばさみ
所要時間	2時間程度	利用者で 用意するもの	軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、新聞紙、マッチ
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン(綿素材のもの)、軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、帽子、マスク

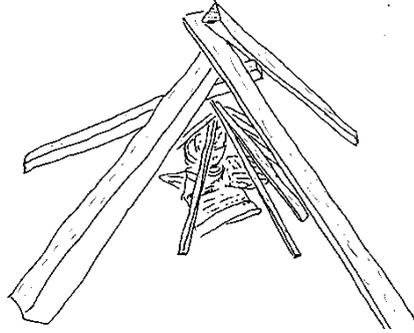
災害が起こったときに電気やガスなどのライフラインが止まっても、自分の力で火を起こし、暖をとったり、調理したりすることができるようになる学びです。生きていくための生活体験として手軽に取り組めるプログラムです。火をつけてから、湯沸かしをしたり、マシュマロを焼いたりすることもできます。

## 火起こし体験

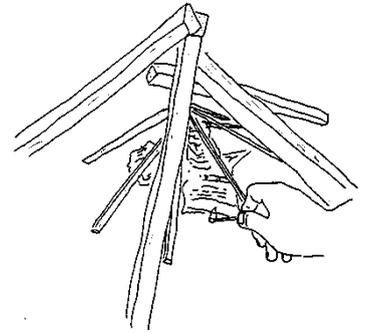
### ○まきの組み方



①新聞紙で、てるてるぼうずを作ります。

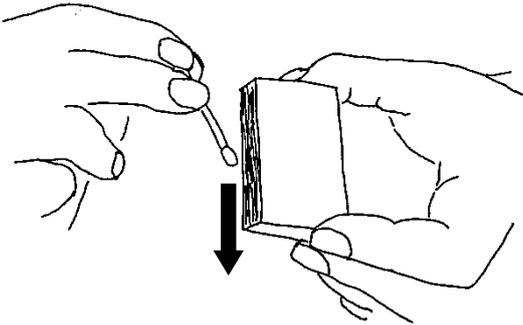


②てるてるぼうずの上に細いまき→太いまきの順にかさねます。

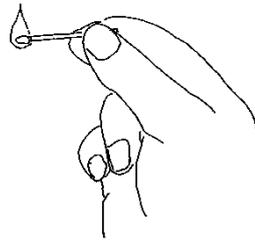


③てるてるぼうずの下に火をつけます。

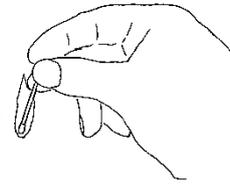
### ○マッチの使い方



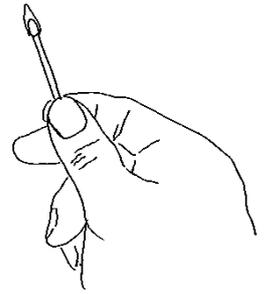
マッチを3本の指でもち、体の外に向けてこすります。



横に向けるとゆっくりもえます。

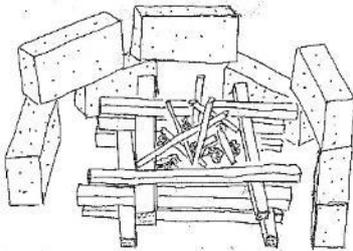


下に向けたままだと火が上がりやけどします。

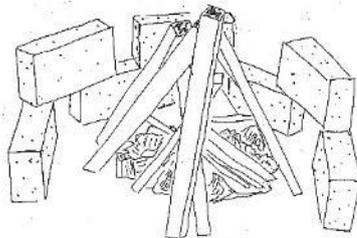


上に向けると消えます。

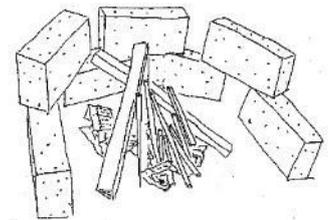
### ○組み方のしゅるい



井げた型  
野外すい事や焼き杉に向いています。



ピラミッド型  
マシュマロ焼きや湯わかしに向いています。



ブーメラン型  
火打ちがまで火をつけやすいですが消える時もあります。

## 1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・火の起こし方を知り、効率よく火を保つ技術を身につける。災害時における火の扱い方についてふれる。	総合的な学習	「防災」
・燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、間伐材の燃え方を多面的に考え、実践することができる。	理科	6年「ものの燃え方」

## 2. ポイント

### ア) 活動前

- ・ 長袖、長ズボンが望ましい。
- ・ 帽子、マスクを着用する。
- ・ ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服にする。
- ・ 軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・ マッチは学校で準備する。
- ・ 雨天の時は、かまどの組み方が変わるので所員と相談する。

### イ) 活動中

- ・ 薪の束の運搬は、軍手を着用させる指導をする。
- ・ 火を扱う際は皮手袋を着用させる。
- ・ マッチは引率者が回収する。

### ウ) 活動後

- ・ レンガには決して水をかけない（熱いレンガに水をかけると割れるため）。
- ・ 実習棟裏のスコップ、ちりとり、一輪車で、燃えた灰等は、灰捨て場へ運んで水をかける。灰捨て場は実習棟裏手にある（確認しておくこと）。
- ・ レンガはしばらく熱いままなので、冷めたことを確認してから指導者の指示で片付けを行う。
- ・ レンガは重いので、気を付けて運ぶように指導する。

## 3. 安全対策について

--